

Vol.31 No. 10

特別附録 昭和59年10月30日発行

October 1984

JAPANESE JOURNAL OF PUBLIC HEALTH

# 日本公衆衛生雑誌

第31巻・第10号 特別附録 昭和59年10月

第43回日本公衆衛生学会総会抄録集(Ⅰ)

大 阪(大阪市)

日本公衛誌  
J. J. P. H

日 本 公 衆 衛 生 学 会

Japanese Society of Public Health

10

特別附録

## L P C 式生活習慣検査の尺度構成

○柳井 晴夫(千葉大文学部) 日野原 重明, 高木 廣  
文(聖路加看護大学) 日野原 緑, 道場 信孝, 小見  
山 喜八郎(財・ライフ プランニング センター)

## I はじめに

衛生状態の向上や生活環境が良好となった現在, 寿命の延長とともに悪性新生物, 脳血管疾患, 心疾患などの成人病の予防が大きな問題となってきた。これらの成人病は「習慣病」ともよばれ, 日常生活における多年の各種習慣に大きく影響されているものと考えられている。

われわれはこれまでに, 地域住民の健康の維持, 増進, そして特に循環器疾患予防のために, 生活習慣に関する調査を行ってきた。そのために作成した生活習慣調査票は, 性格, 精神的身体的健康度ならびに価値観に関する255項目, 30尺度よりなるものであった。多くの調査項目を含めることにより信頼性の高い結果を得ることができるが, 逆にそのために被調査者側の負担はきわめて大きなものとなる。その結果, 記入ミスが多くなったり, 後半の質問項目に正しく答えられなくなることも起こり得る。今回, 不必要と考えられる項目を減らし, また尺度も新たに検討し, 生活習慣調査票を大幅に改訂した。この新しい生活習慣調査票をL P C式生活習慣検査と名付け, その作成手順ならびに, それを用いて各地域の差, 年齢差, 学歴差などについて分析を行ったので, その結果について報告する。

## II 調査対象と方法

L P C式生活検査票を新たに作成するために, われわれは三段階の調査手順を踏んだ。すなわち, (1) 旧調査票の見直し (2) 予備調査 (3) 本調査である。(1)の旧調査票の見直しのために, 神奈川県足柄上郡中井町および長野県中野市在住の婦人2,357人(1,123人, 1,234人)の昭和56年調査データを再分析し, 仮定された各尺度がわれわれが望んでいる因子を持つかを検討し, その結果を基に予備調査票を作成した。(2)の予備調査は昭和57年12月に中井町在住の婦人164人に対して行った。各尺度ごとに主成分分析を行い, 各尺度の信頼性を推定するためにアルファ信頼性係数を求めた。 $\alpha$ の値が小さい尺度や回答に著しい偏りのある項目, もしくは無回答の比率が高い項目などの削除, 修正を行い, 本調査票を作成した。(3)の本調査は昭和58年中に, 中井, 中野, 富山, 横浜, 札幌の5地域について行い, 全項目の回答率90%以上の婦人5,502人を分析対象とした。調査対象者の平均年齢は43.7歳で, 地域別にみると, 富山が46.2歳と最も高く, 札幌が40.3歳で最も低かった。

本調査のデータをもとに, 各尺度ごとに主成分分析を行い, アルファ信頼性係数を求め, その信頼性を推定した。また, 新尺度をさらにまとめ, 総合的な指標を得るために主成分分析, およびバリマックス回転後の各尺度の因子負荷量を求めた。

## III 結果

表に23尺度の名称とアルファ信頼性係数の値を示した。全般的に比較的高い信頼性を持つ尺度が多く作成されたといえよう。次に23尺度の因子分析によって(1)行動力(運動, 教養, 料理への進取性)(2)情緒安定度(3)食生活の望ましさ(糖分, 高塩分を控えめにする)(4)生活の堅実さ(義理人情, 保守中庸)(5)積極性(外向性, 自発性)(6)心身の安定度の6つの因子が抽出された。これらは生活習慣のパターンを形成する主要な因子といえよう。

表  
23  
尺度  
の  
アル  
ファ  
信頼  
性  
係  
数

|         |       |       |       |
|---------|-------|-------|-------|
| 娯楽      | 0.497 | 多愁訴   | 0.788 |
| 高塩分     | 0.719 | 疾病    | 0.759 |
| 食事の規則性  | 0.691 | 運動    | 0.722 |
| 糖分      | 0.682 | 情緒安定性 | 0.778 |
| 料理への進取性 | 0.748 | 自発性   | 0.728 |
| 妻一夫型    | 0.574 | 外向性   | 0.844 |
| 肉・油脂    | 0.659 | 共感性   | 0.643 |
| 近代型朝食   | 0.658 | 義理人情  | 0.643 |
| 教養      | 0.731 | 社会奉仕  | 0.714 |
| 飲酒・喫煙   | 0.658 | 経済    | 0.510 |
| 清潔      | 0.623 | 保守中庸  | 0.587 |
|         |       | 健康観   | 0.549 |

## L P C 式生活習慣検査による地域差・学歴差

○高木 廣文、日野原 重明(聖路加看護大学)

柳井 晴夫(千葉大文学部)日野原 緑、道場 信孝

小見山 喜八郎(財・ライフ プランニング センター)

## I はじめに

前報(生活習慣調査(5))において報告されたように、我々は従来用いていた生活習慣調査票を改訂し、新たに23尺度を設定した。さらに、生活習慣の総合的な指標として6つの因子を選び出した。ここでは、生活習慣に関する23尺度と6因子の因子得点を用いて、対象となった地域におけるこれらの得点差、および学歴による差を検討する。

## II 資料と方法

前報と同様に、中井、中野、富山、横浜、札幌の5地域に在住する婦人5,502人から得られた生活習慣に関するデータを資料とした。生活習慣に関する23尺度の得点は平均0、分散1に標準化して用いた。6因子の因子得点も同様に標準化されている。

5地域の各尺度得点および因子得点の平均値の差は一元配置分散分析により行った。分析には、とくに地域差と学歴差を検討することにした。しかし、5地域間での学歴差がかなり認められたため、さらに学歴をそろえた場合についても分析を加えた。学歴をそろえる場合、(i)旧制中学・新制高校卒と、(ii)旧制高校・専門学校・短大卒以上の2つの場合に分けて地域差を検討した。

## III 結果と考察

(1) 23尺度の標準得点の各地域別平均値の差に関しては、すべての尺度において有意差が認められた(糖分尺度が5%水準、他の尺度は0.1%以下の水準)。中井では娯楽型、高塩分、洋風の食事、飲酒-喫煙、清潔、義理人情の各尺度得点が高く、逆に社会奉仕の得点は低かった。中野では、高塩分、肉-油脂、運動の実施、義理人情、経済型、保守中庸、健康観などの尺度が高く、妻-夫型では逆に低かった(すなわち、夫主導型)。また、洋風の食事、社会奉仕の尺度も低かった。富山では、多愁訴、疾病頻度、情緒不安定、経済型の尺度がやや高く、娯楽型、料理への進取性、妻-夫型、肉-油脂、洋風の食事、教養、飲酒-喫煙、清潔、運動の実施、共感性、社会奉仕の尺度で低かった。横浜と札幌はよく似たパターンを示した。すなわち、料理への進取性、妻-夫型、洋風の食事、教養、運動の実施、外向性、社会奉仕の尺度得点が両地域とも高く、逆に娯楽型、高塩分、肉-油脂、義理人情、経済型の尺度で低かった。

(2) 学歴差による尺度得点では、情緒不安定と共感性の2尺度以外で有意差が認められた。学歴の上昇につれ得点が高くなる傾向を示したのは、料理への進取性、妻-夫型、洋風の食事、教養、自発性、外向性、社会奉仕の7尺度であり、逆に高塩分、義理人情、保守中庸の3尺度では学歴の上昇とともに低くなっていた。

(3) 地域別の6因子の因子得点の平均値には、すべて0.1%以下の有意差が認められた。横浜と札幌では他地域と比べ、行動力、情緒の安定度、積極性などの因子得点が高く、生活の堅実さに関する因子得点は低いことが示された。

(4) 学歴別の因子得点の平均値には、すべて0.1%以下の有意差が認められた。高学歴になるに従い、因子得点も増加する傾向を示したのは、行動力を示す因子に関してであり、逆に減少するのは生活の堅実さに関するものであった。

(5) 学歴をそろえて地域差を検討した結果、高卒者のみの場合には尺度得点と因子得点は上記の結果と同様の傾向を示した。しかし、短大卒以上の場合、食事の規則性、糖分、多愁訴、疾病頻度、運動の実施、情緒不安定、自発性、外向性、健康観の9尺度で地域間に有意差は認められなかった。同様に、心身の安定度に関する因子得点にも地域差は認められなかった。

## L P C 式生活習慣検査と既往歴との関連

○日野原 緑, 道場 信孝, 小見山 喜八郎 (財・ライフ  
プランニング センター) 日野原 重明, 高木 廣文  
(聖路加看護大) 柳井 晴夫 (千葉大文学部)

## I はじめに

前報, 前々報 (生活習慣調査(5)および(6))に続いて, 本報では生活習慣と既往歴との関連について検討を行う。

## II 調査対象と方法

前報, 前々報と同様に, 中井, 中野, 富山, 横浜, 札幌の5地域に在住する婦人5,502人を対象とし, 10の既往歴 (高血圧, 狭心症, 心筋梗塞, 痛風, 貧血, 糖尿病, 肝臓病, 腎臓病, 胃・十二指腸潰瘍, 結核) の有無を調べた。そのうち頻度の高かった高血圧, 貧血, 胃・十二指腸潰瘍について, それぞれ既往歴のある群とない群に分け, 因子分析で得られた6つの因子について, 2群間の因子得点の平均値の差を検討した。

## III 結果

対象者中の各既往歴の比率をみると, 5地域とも, 貧血の既往があるとした者が最も多かったが, 10.5%から17.4%の開きがあり, 統計的に有意な差が認められた。次に多いのが, 中井, 中野, 富山の3地域では高血圧であり, 横浜では腎臓病と胃・十二指腸潰瘍の各5.7%, 札幌では胃・十二指腸潰瘍の6.1%であった。また, これらの疾患についてはすべて, 5地域の比率には有意差が認められた。なお, 結核の既往が横浜では3.9%, 札幌では4.5%あり, 他の3地域が0.2~1.2%であることを考えると注目すべき点であろう。これらの地域差が各地域の年齢構成の違いによるものか, 真の地域差を反映するものかを考えてみる必要がある。一般に, 年齢の増加に伴い各種疾患の既往歴を有する割合も増加すると考えるのは自然だと思われる。地域別の平均年齢は, 富山, 中野, 中井, 横浜, 札幌の順であるが, この順序にほぼ従うのは高血圧のみである。しかし, 高血圧の既往も中野, 富山が各11.5%, 13.3%であるのに比べ, 他地域では4.4~6.8%の間であり, 必ずしも年齢差のみによるものではないと考えられる。他の疾患には, 高血圧のような傾向はなく, 地域差のほうが大きいようである。

次に, 高血圧の既往の有無による各因子得点の平均値を比較した。「行動力」以外の因子では, 統計的な有意差が認められた。すなわち, 高血圧の既往がありとしたグループはなしとしたグループに比べ, 「望ましい食生活」, 「生活の堅実さ」, 「積極性」の3因子の得点が高く, 逆に「情緒安定度」と「心身の安定度」が低いことが認められた。貧血の既往別に各因子得点の平均値を比較すると, 有意差が認められたのは, 「情緒の安定度」と「心身の安定度」の2因子であり, いずれも既往があるとしたグループでその得点が低かった。腎臓病の既往別に各因子得点の平均値を比較すると, 「望ましい食生活」と「積極性」の2因子は既往歴ありとしたグループで高く, 逆に「生活の堅実さ」と「心身の安定度」の2因子は低く, これら4因子については統計的な有意差が認められた。胃・十二指腸潰瘍の既往別に各因子得点の平均値を比較すると, 「生活の堅実さ」に関しては有意差は認められなかったが, 他の因子については, 既往の有無による因子得点の平均値の差はすべて有意であった。既往があるとしたグループでは, 「行動力」, 「望ましい食生活」, 「積極性」の3因子の得点が高く, 「情緒の安定度」と「心身の安定度」の得点が低かった。このほかの疾患については, 既往歴があるとした者の比率がきわめて小さいため, 分析に困難があるのでやめることとした。上記の結果に共通するものは, 既往歴があるとしたグループではすべて「心身の安定度」の得点が低いことであった。しかし, 他の因子に関しては, 各疾患ごとに特有のパターンが存在するように思われる。そのような疾患ごとのパターンをより詳細に吟味することで, 疾患の予防や健康維持のために有用な情報を得ることが可能ではないかと考えられ, 今後さらに調査票をよりよく改訂するとともに, それらの分析も続ける必要があると思われる。